

科目名[英文名]	技術経営論入門A [Introduction to Management of TechnologyA] …Q 1 技術経営論入門B [Introduction to Management of TechnologyB] …Q 2		
開講期 曜日・時限	Q 1 (4/11~6/6) Q 2 (6/13~8/1)	火曜日	6限目(18:10-19:40)
コーディネーター	森本 章治	E-mail: amorimot@ec.t.kanazawa-u.ac.jp	
担当講師陣	[氏 名] 川上 文清 田中 一郎 西山 貞雄 紙本 伸明 目片 強司 太田 貴章 山田 光俊 石黒 渉 林 政彦	[所 属] 北陸産業活性化センター 北陸ライフサイエンスクラスター推進室 地域コーディネーター 元新日鐵主幹研究員・元金沢大学教授 名誉教授 ユニバーサル製缶株式会社 顧問 紙本技研(株) 代表取締役 本学先端科学・イノベーション推進機構 准教授 BS 国際特許事務所 弁理士 (有) 金沢大学ティ・エル・オー(KUTLO) シニア ライセンシング・アソシエイト 本学先端科学・イノベーション推進機構 研究員 NTT環境エネルギー研究所グリーンマテリアルプロジェクトエネルギー材料グループ 主任研究員	
キーワード	MOT, 産学連携, マーケティング, 特許制度, 知財管理		

◆授業の主題・目標

本講義は、MOTコースの中でのイントロダクションとしての位置づけとなります。技術経営 (MOT) とは何か、その必要性からはじめ、その背景、構成する基礎分野、応用など事例紹介も交えて興味深く紹介し、技術経営学を学ぶ動機付けになることを目指します。また、特許活用、知財マネジメント、技術開発投資、技術移転などの知財関係に重点を置いています。

◆授業の概要

技術経営論入門A

1. 概論 (川上) ……MOTとは何か、科学と技術と経営の違いおよび研究と開発の違いを解説する。
2. 概論 (川上) ……グローバルイノベーション、異文化間コミュニケーション、産学官連携などをキーワードとして、欧米のバイオベンチャー研究所、外資系製薬企業研究所での経験も交えながら概説する。
3. 科学技術政策と先端科学研究・技術動向、最近の技術史 (田中) ……なぜ 1990 年代に米国に敗れたか。
4. 科学技術政策と先端科学研究・技術動向、最近の技術史 (田中) ……我が国の製造業の特徴を考察し、諸外国との競合関係の中でどのような変容を遂げてきたか、事例を挙げて論じ、今後どのような戦略を採用すべきかについて考える。
5. 開発計画の事例 1 (西山) ……飲料アルミ缶、ボトルの開発計画の具体例を通してビジネス創造のキーポイントを探る。
6. 開発計画の事例 2 (西山) ……飲料アルミ缶、ボトルの開発計画の具体例を通してビジネス創造のキーポイントを探る。

7. 品質評価と企業の危機管理概論（紙本）……1個の品質クレームが、企業の存続を左右するほど大きな事件になっている。技術者として如何に確かな品質を持った製品を設計するか、経営者はどのように危機管理に備えるか等々について述べる。
8. 品質評価と企業の危機管理概論（紙本）……品質管理技術一般、企業における技術者倫理についても触れる。

技術経営論入門B

1. 知財入門（目片）……身近な発明の紹介から入り、知財権の種類、特許に関する出願権利化手続き、特許要件等基礎知識を学ぶ。
2. 技術調査（太田）……知財調査の重要性を知り、J-PlatPat で簡単なキーワード検索ができる様に技術調査の方法を学ぶ。
3. 技術移転（山田）……1980年代の日本の産業競争力を取り戻し国の活性化を図るための政府・金沢大学の取り組み方、および本学の特色ある技術移転の方向性について学ぶ。また本学からの技術移転、ライセンス契約の概要についても学習する。
4. 研究でのリスク管理（目片）……新規性喪失、発明者認定、リサーチツール特許、輸出管理、共同研究など研究を進める上でのリスクを知る。
5. R&D と知財戦略（目片）……企業戦略、技術戦略、知財戦略の整合の重要性を学び、事業戦略、技術戦略と知財戦略を整合させ、繰り返し見直すことの重要性を学習する。
6. 成熟社会で求められている人財と組織（石黒）……現代社会で企業が成長し続けるためには、技術力に加え、これを実現する人財、組織が重要となる。本講義では、これからの企業で必要となる人財と組織について学習し、受講者がこれから社会人になっていく上で重要なことを学ぶ。
7. 技術開発とグローバル競争（林）……R&D に携わる技術者には、他者にはない競争力に優れたプロダクトの開発が求められている。しかしながら、優れた技術であっても市場で優位なポジションを占めることができない事例が散見される。そこで、講師の専門分野である二次電池開発の事例や歴史を参考にしながら、今後のR&Dに必要な方針や施策について学習する。
8. まとめ（森本）

◇各講義の内容（予定）

	学期	開講日	授 業 内 容	担当講師
(1)	Q 1	4月11日(火)	概論(1) …MOTとは何か?	川上文清
(2)	Q 1	4月18日(火)	概論(2) …MOTとは何か?	川上文清
(3)	Q 1	4月25日(火)	科学技術政策と先端科学研究・技術動向、最近の技術史(1)	田中一郎
(4)	Q 1	5月9日(火)	科学技術政策と先端科学研究・技術動向、最近の技術史(2)	田中一郎
(5)	Q 1	5月16日(火)	開発計画の事例1	西山貞雄
(6)	Q 1	5月23日(火)	開発計画の事例2	西山貞雄
(7)	Q 1	5月30日(火)	品質評価と企業の危機管理概論	紙本申明
(8)	Q 1	6月6日(火)	品質評価と企業の危機管理概論	紙本申明
(9)	Q 2	6月13日(火)	知財入門	目片強司
(10)	Q 2	6月20日(火)	技術調査	太田貴章

(11)	Q 2	6月27日(火)	技術移転	山田光俊
(12)	Q 2	7月4日(火)	研究でのリスク管理	目片強司
(13)	Q 2	7月11日(火)	R&D と知財戦略	目片強司
(14)	Q 2	7月18日(火)	成熟社会で求められている人財と組織	石黒渉
(15)	Q 2	7月25日(火)	技術開発とグローバル競争	林 政彦
(16)	Q 2	8月1日(火)	まとめ	森本章治

◆成績評価の方法

レポート（80%）、出席状況（20%）で評価します。

◆テキスト・参考書・教材等

教科書：特にありません。必要に応じて講義時に各講師から講義資料を配付します。

◆コーディネーターから受講生へのメッセージ

本科目「技術経営論入門A」及び「技術経営論入門A」はMOTコースの4科目の中心的基礎をなす入門編です。講師陣には技術マネジメント教育の専門家を中心に、化学・素材・電機メーカーなどの技術開発、研究など第一線で活躍してきた実績と経験のある学内外の講師、特許事務所を経営する弁理士など、多彩な講師陣が、事例を豊富に取り入れて分かりやすい技術経営論を展開します。